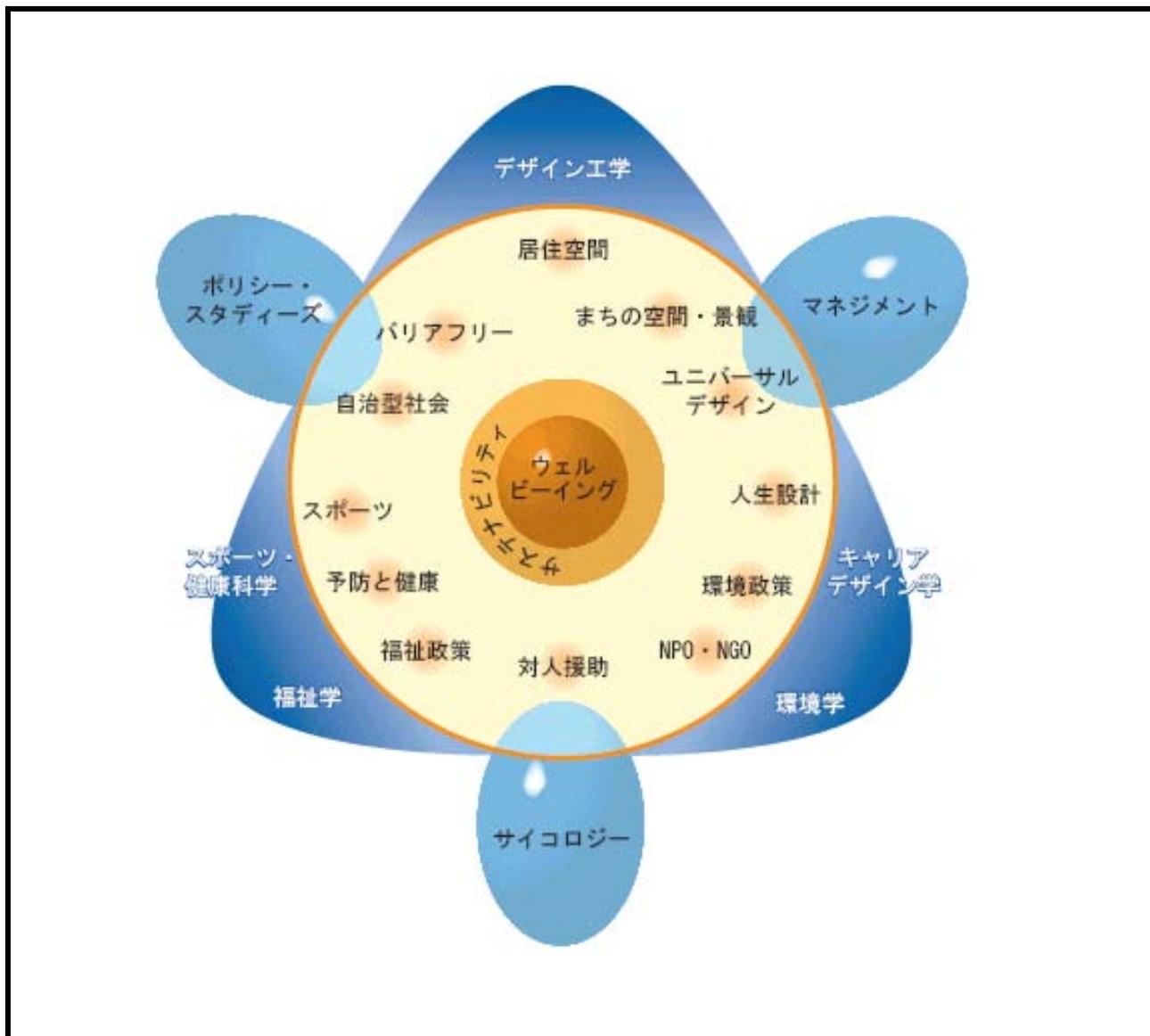


資料 1 : 法政大学の総合力を「ウェルビーイング」のもとに結集する

法政大学の総合力を「ウェルビーイング」のもとに結集する



スポーツ健康学のイメージ

ウェルビーイングの増進

健康な社会の実現

優れた指導者の輩出

スポーツの場の創出

スポーツの文化的価値向上

高齢化社会の
健康不安

勤労世代の
運動不足

青少年の
体力低下

生活習慣病

社会的要請への対応
(健康・スポーツへの意識の高まり)

スポーツ健康学

健康科学

運動生理学
スポーツ医学
測定・評価学
etc...

体育学

トレーニング科学
スポーツ科学
コーチング学
etc...

スポーツビジネス

スポーツの普及・振興
(スポーツ産業 ・スポーツメディア)

「スポーツ健康学」をベースに、スポーツ文化の向上と健康づくりに資するスペシャリストを育てる

医療機関・福祉施設
健康増進施設
フィットネスクラブ
トレーナー
研究職

健康関連産業
スポーツ関連産業
スポーツ施設
マスコミ、サービス業
起業家

公務員、教員
各種企業
競技指導者
インストラクター
競技者

心身の健康と社会への貢献

スポーツ健康学

ヘルスデザイン

スポーツコーチング

スポーツビジネス

資料4：スポーツ振興についての国や地方公共団体への要望

6 スポーツ振興についての要望（「体力・スポーツに関する世論調査報告書」より抜粋）

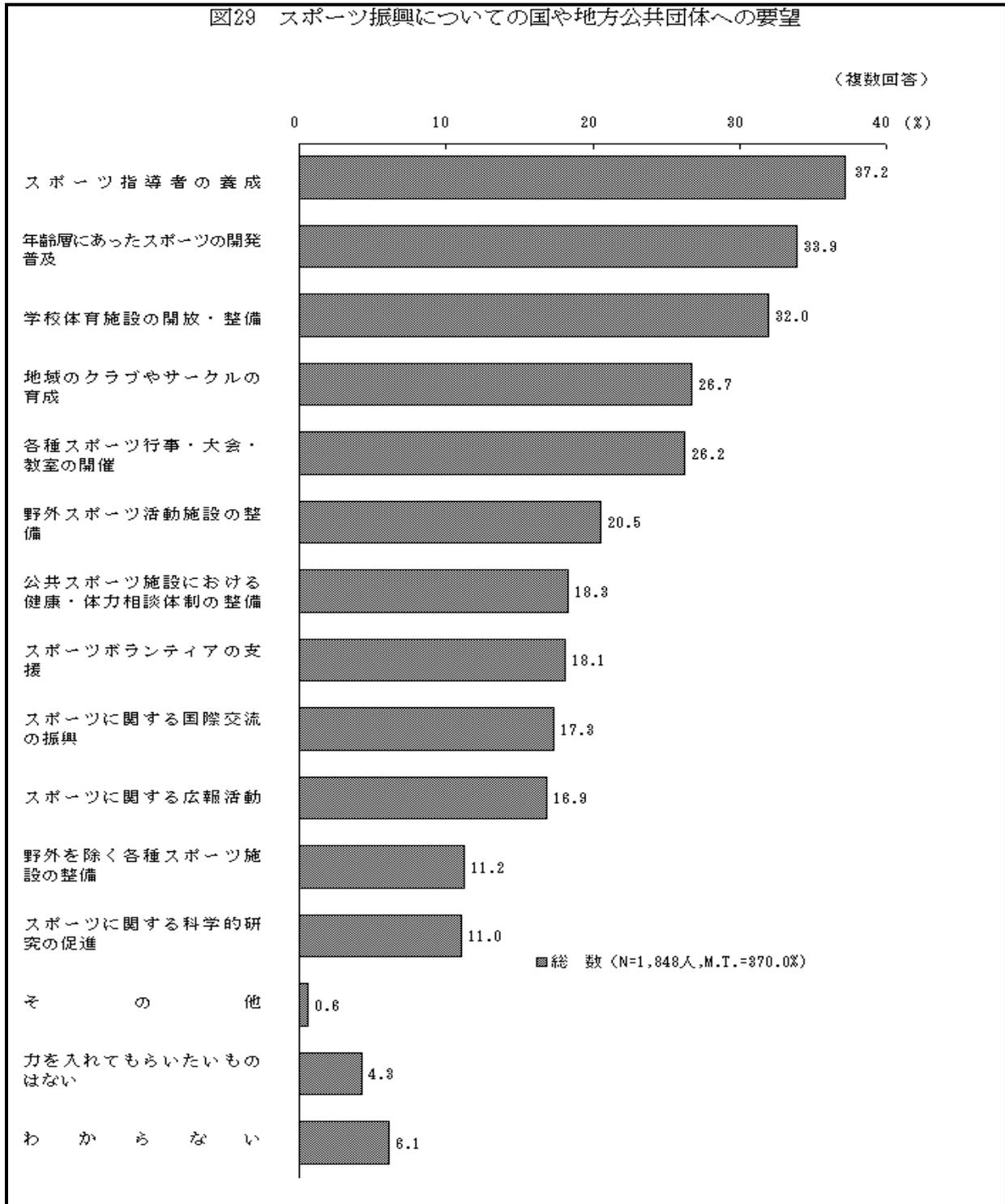
（1）スポーツ振興についての国や地方公共団体への要望

（略）

次に、スポーツをもっと振興させるために、国や県または市町村に今後力を入れてもらいたいことについては、「スポーツ指導者の養成」を挙げた者の割合が37.2%、「年齢層にあったスポーツの開発普及」を挙げた者の割合が33.9%、「学校体育施設の開放・整備」を挙げた者の割合が32.0%と高く、以下、「地域のクラブやサークルの育成」（26.7%）、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」（26.2%）などの順となっている。（複数回答、上位5項目）

（略）

図29 スポーツ振興についての国や地方公共団体への要望



スポーツ健康学部(仮称)カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次	
総合教育科目 (30単位以上)	(8単位以上) 外国語科目	(通)総合英語Ⅰ* (通)総合英語Ⅱ*	(通)総合英語Ⅲ* (通)総合英語Ⅳ*			
	必修選択 (8単位以上)	(通)英語コミュニケーションⅠ*				
視野形成科目 (22単位以上)	必修 (6単位)	(通)基礎演習* (後)スポーツとキャリア形成				
	必修選択 (16単位以上)	(前)コミュニティスポーツ論 (前)数学 (前)経営学 (前)法学(日本国憲法) (前)コミュニケーション論	(前)人間とスポーツ (前)女性とスポーツ (前)死生学 (前)文学 (前)情報リテラシーⅠ	(後)情報リテラシーⅡ (後)スポーツとまちづくり (後)スポーツレクリエーション論 (後)統計学 (後)病の社会史	(後)哲学 (後)生命倫理	
専門基礎科目 (30単位)	講義科目 コース共通 必修 (24単位)	(前)生理学A (前)機能解剖学 (前)衛生学 (前)スポーツ哲学 (後)スポーツ運動学Ⅰ (後)健康教育論 (後)スポーツ心理学A	(前)運動生理学概論 (前)スポーツ医学概論 (前)スポーツ栄養学 (後)スポーツバイオメカニクス (後)スポーツマネジメント論			
	実技科目 コース共通 必修(6単位)	(通)スポーツ総合*	(前)陸上競技実習 (後)総合スポーツ実習A	(前)スイミング実習 (後)総合スポーツ実習B		
専門基礎科目 (14単位以上)	コース共通 必修選択 (14単位以上)	(前)スポーツコーチング論Ⅰ (前)スポーツトレーニング論Ⅰ (前)スポーツ社会学 (後)健康科学Ⅰ (後)スポーツ文化論 (後)スポーツ法学 (後)生理学B	(前)スポーツコンディショニング論Ⅰ (前)スポーツ心理学B (前)公衆衛生学 (前)体力測定・評価 (前)生涯スポーツ論 (後)スポーツリスクマネジメント (後)学校保健			
卒業所要単位数(124単位)	専門教育科目(90単位以上) 「専門科目」・「専門演習」の合計	必修選択 (選択した コースから 20単位 以上選択)	ヘルスデザインコース			
			(後)運動療法総論	(前)リハビリテーション概論 (前)健康科学Ⅱ (後)アスレティックトレーナー概論 (後)スポーツコンディショニング論Ⅱ	(前)運動処方・負荷テスト (前)スポーツ医学 (前)生活習慣病と身体活動 (前)運動生理学	(後)健康科学文献レビュー (後)アスレティックリハビリテーション (後)運動器疾患と身体活動
				(前)ジョギング・ウォーキング実習	(後)フィットネス・トレーニング実習	(後)エアロビック運動実習
					(通)国内研修ワークショップ (前)スポーツリハビリテーション実習 (前)身体機能測定実習	(後)運動負荷テスト実習 (後)運動学ケーススタディ (後)スポーツ医学実習 (後)運動生理学実習
			スポーツビジネスコース			
			(前)レジャー論 (前)スポーツ経済論 (後)スポーツビジネス論 (後)スポーツ取材論	(前)スポーツと政治 (前)スポーツマーケティング論 (後)スポーツ産業論 (後)スポーツメディア論 (後)スポーツ行政論	(前)スポーツイベント論 (前)スポーツクラブ運営論 (前)スポーツジャーナリズム論(新聞)	(後)スポーツジャーナリズム論(放送) (後)スポーツ政策論
					(通)マーケティングリサーチ実習	
			スポーツコーチングコース			
			(前)トップアスリート論 (後)スポーツトレーニング論Ⅱ	(前)スポーツ運動学Ⅱ (前)スポーツコーチング論Ⅱ (前)スポーツ戦略・戦術論 (後)メンタルフィットネス論 (後)比較スケート論(フィギュア・スピード) (後)舞踊論		
				(通)サッカー指導論(実習)* (通)バレーボール指導論(実習)* (通)バスケットボール指導論(実習)* (通)テニス指導論(実習)*	(通)バドミントン指導論(実習)* (通)ベースボール指導論(実習)* (通)ラグビー指導論(実習)* (通)陸上競技指導論(実習)*	(通)ウインタースポーツ指導論(実習)* (通)総合格闘技指導論(実習)* (通)スイミング指導論(実習)* (通)駅伝・ロードレース指導論(実習)* (通)テーピング指導論(実習)*
		(前)青少年スポーツ実習(サッカー)	(後)青少年スポーツ実習(陸上) (後)キッズスポーツ実習			
専門演習	選択		(通)専門演習Ⅰ*	(通)専門演習Ⅱ*	(通)専門演習Ⅲ*	
			(通)英語演習Ⅰ* (通)英語演習Ⅱ*			

必修科目
 必修選択科目
 コース別必修選択科目
 選択科目

履修モデル(1):ヘルスデザインコース

養成人材像:企業や団体において、トップアスリートを支えるトレーナー専門職として活躍する人材(スポーツリーダー、アスレティックトレーナー養成課程)

		1年次 履修単位数:42単位	2年次 履修単位数:42単位	3年次 履修単位数:20単位	4年次 履修単位数:20単位	
総合教育科目(30単位以上)	(8単位以上) 外国語科目	(通)総合英語Ⅰ* (通)総合英語Ⅱ*	(通)総合英語Ⅲ* (通)総合英語Ⅳ*			
	(22単位以上) 視野形成科目	(通)基礎演習* (後)スポーツとキャリア形成		(前)人間とスポーツ△ (後)病の社会史	(後)統計学	
卒業所要単位数(124単位)	専門基礎科目(30単位以上)	講義科目 コース共通 必修 (24単位)	(前)生理学A (前)機能解剖学▲ (前)衛生学 (前)スポーツ哲学 (後)スポーツ運動学Ⅰ▲ (後)健康教育論 (後)スポーツ心理学A△	(前)運動生理学概論 (前)スポーツ医学概論△ (前)スポーツ栄養学▲ (後)スポーツバイオメカニクス▲ (後)スポーツマネジメント論△		
		実技科目 コース共通 必修 (6単位)	(通)スポーツ総合*	(前)陸上競技実習 (後)総合スポーツ実習A	(前)スイミング実習 (後)総合スポーツ実習B	
	(14単位以上) 専門基礎科目	(前)スポーツコーチング論Ⅰ△ (前)スポーツトレーニング論Ⅰ△ (後)健康科学Ⅰ▲ (後)生理学B	(前)スポーツコンディショニング論Ⅰ△ (前)スポーツ心理学B▲ (前)体力測定・評価▲ (後)スポーツリスクマネジメント▲			
卒業所要単位数(90単位以上)	「専門科目」・「専門演習」の合計	必修選択 (選択した コースから 20単位 以上選択)	ヘルスデザインコース			
			(後)運動療法総論	(前)リハビリテーション概論▲ (前)健康科学Ⅱ▲ (後)アスレティックトレーナー概論▲ (後)スポーツコンディショニング論Ⅱ▲	(前)運動生理学▲ (前)生活習慣病と身体活動▲ (後)アスレティックリハビリテーション▲ (後)フィットネス・トレーニング実習▲	(前)運動処方・負荷テスト (後)健康科学文献レビュー (後)運動器疾患と身体活動▲
					(前)身体機能測定実習▲ (後)運動負荷テスト実習▲ (後)スポーツ医学実習	(通)国内研修ワークショップ▲ (前)スポーツリハビリテーション実習▲ (後)運動学ケーススタディ▲ (後)運動生理学実習▲
			スポーツビジネスコース			
			スポーツコーチングコース			
			(後)メンタルフィットネス論▲			
					(通)テーピング指導論(実習)*	
	専門演習	選択	(通)専門演習Ⅰ*	(通)専門演習Ⅱ*	(通)専門演習Ⅲ*	

必修科目
必修選択科目
コース別必修選択科目
選択科目

△=公認スポーツ指導者(共通Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ)
▲=公認アスレティックトレーナー(専門)
*=通年科目

履修モデル(2):ヘルスデザインコース

養成人材像:健康増進施設において、健康運動指導士としてスポーツを通じた健康づくり指導者として活躍する人材(健康運動指導士養成課程)

		1年次 履修単位数:42単位	2年次 履修単位数:42単位	3年次 履修単位数:17単位	4年次 履修単位数:23単位	
総合教育科目(30単位以上)	(8単位以上) 外国語科目	(通)総合英語I* (通)総合英語II*	(通)総合英語III* (通)総合英語IV*			
	(22単位以上) 視野形成科目	(通)基礎演習* (後)スポーツとキャリア形成		(前)コミュニケーション論	(前)女性とスポーツ (前)コミュニティスポーツ論 (後)スポーツレクリエーション論	
卒業所要単位数(124単位)	専門基礎科目(30単位以上)	講義科目 コース共通 必修 (24単位)	(前)生理学A (前)機能解剖学● (前)衛生学 (前)スポーツ哲学 (後)スポーツ運動学I (後)健康教育論● (後)スポーツ心理学A	(前)運動生理学概論 (前)スポーツ医学概論● (前)スポーツ栄養学● (後)スポーツバイオメカニクス (後)スポーツマネジメント論		
		実技科目 コース共通 必修 (6単位)	(通)スポーツ総合*	(前)陸上競技実習 (後)総合スポーツ実習A	(前)スイミング実習 (後)総合スポーツ実習B	
	専門基礎科目(14単位以上)	(前)スポーツコーチング論I (前)スポーツトレーニング論I● (後)健康科学I (後)生理学B	(前)スポーツコンディショニング論I (前)体力測定・評価● (前)生涯スポーツ論 (後)スポーツリスクマネジメント●			
卒業所要単位数(90単位以上)	専門教育科目(46単位以上) 「専門科目」・「専門演習」の合計	ヘルスデザインコース スポーツビジネスコース スポーツコーチングコース	ヘルスデザインコース			
			(後)運動療法総論	(前)リハビリテーション概論 (前)健康科学II (後)アスレティックトレーナー概論 (後)スポーツコンディショニング論II	(前)生活習慣病と身体活動● (前)運動生理学● (後)運動器疾患と身体活動	(前)運動処方・負荷テスト● (後)健康科学文献レビュー●
					(後)フィットネス・トレーニング実習●	(前)ジョギング・ウォーキング実習● (後)エアロビック運動実習●
					(前)スポーツリハビリテーション実習● (後)運動負荷テスト実習●	(通)国内研修ワークショップ● (前)身体機能測定実習● (後)運動学ケーススタディ●
			スポーツビジネスコース			
			スポーツコーチングコース			
			(後)スポーツトレーニング論II	(後)メンタルフィットネス論●		
						(通)スイミング指導論(実習)*●
			選択		(通)専門演習I*	(通)専門演習II*

必修科目
必修選択科目
コース別必修選択科目
選択科目

●=健康運動指導士
*=通年科目

履修モデル(4):スポーツコーチングコース

養成人材像:学校や企業、団体において健康運動指導者及びスポーツ指導者として活躍する人材(スポーツリーダー、健康運動実践指導者養成課程)

		1年次 履修単位数:40単位	2年次 履修単位数:42単位	3年次 履修単位数:25単位	4年次 履修単位数:17単位	
総合教育科目(30単位以上)	(8単位以上) 外国語科目	(通)総合英語Ⅰ* (通)総合英語Ⅱ*	(通)総合英語Ⅲ* (通)総合英語Ⅳ*			
	(22単位以上) 視野形成科目	(通)基礎演習* (後)スポーツとキャリア形成				
	必修選択 (16単位以上)	(前)文学 (後)哲学	(前)人間とスポーツ△ (後)病の社会史	(前)コミュニケーション論 (前)情報リテラシーⅠ (後)情報リテラシーⅡ	(前)コミュニティスポーツ論	
専門基礎科目(30単位)	講義科目 コース共通 必修 (24単位)	(前)生理学A (前)機能解剖学○ (前)衛生学 (前)スポーツ哲学 (後)スポーツ運動学Ⅰ (後)健康教育論○ (後)スポーツ心理学AO△	(前)運動生理学概論○ (前)スポーツ医学概論○△ (前)スポーツ栄養学○ (後)スポーツバイオメカニクス (後)スポーツマネジメント論○△			
	実技科目 コース共通 必修 (6単位)	(通)スポーツ総合*	(前)陸上競技実習 (後)総合スポーツ実習A	(前)スイミング実習 (後)総合スポーツ実習B		
	コース共通 必修選択 (14単位以上)	(前)スポーツコーチング論Ⅰ△ (前)スポーツトレーニング論Ⅰ○△ (後)健康科学Ⅰ	(前)スポーツコンディショニング論Ⅰ△ (前)体力測定・評価○ (前)生涯スポーツ論 (後)スポーツリスクマネジメント○			
卒業所要単位数(124単位) 専門教育科目(90単位以上) 「専門科目」・「専門演習」の合計	専門科目 (46単位以上) 必修選択 (選択した コースから 20単位 以上選択)	ヘルスデザインコース				
			(前)リハビリテーション概論 (前)健康科学Ⅱ	(前)生活習慣病と身体活動	(前)運動処方・負荷テスト○	
				(後)エアロビック運動実習○	(前)ジョギング・ウォーキング実習○ (後)フィットネス・トレーニング実習○	
				(前)スポーツリハビリテーション実習○		
		スポーツビジネスコース				
		スポーツコーチングコース				
			(前)トップアスリート論 (後)スポーツトレーニング論Ⅱ	(前)スポーツ運動学Ⅱ (前)スポーツコーチング論Ⅱ (後)メンタルフィットネス論		
				(通)スイミング指導論(実習)*○ (通)テニス指導論(実習)* (通)ウィンタースポーツ指導論(実習)*	(通)バレーボール指導論(実習)* (通)総合格闘技指導論(実習)*	
					(後)キッズスポーツ実習	
専門演習	選択	(通)専門演習Ⅰ*	(通)専門演習Ⅱ*	(通)専門演習Ⅲ*		

必修科目
必修選択科目
コース別必修選択科目
選択科目

○=健康運動実践指導者
△=公認スポーツ指導者(共通Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ)
*=通年科目

履修モデル(5): スポーツコーチングコース 養成人材像: 中学校・高等学校において保健体育科教員として活躍する人材(教職課程)

		1年次 履修単位数: 42単位 (教職課程: 8単位)	2年次 履修単位数: 38単位 (教職課程: 10単位)	3年次 履修単位数: 26単位 (教職課程: 12単位)	4年次 履修単位数: 18単位 (教職課程: 5単位)	
総合教育科目 (30単位以上)	(8単位以上) 外国語科目	(通) 総合英語 I *□ (通) 総合英語 II *□	(通) 総合英語 III *□ (通) 総合英語 IV *□			
	(22単位以上) 視野形成科目	(通) 基礎演習* (後) スポーツとキャリア形成	(前) 情報リテラシー I (後) 病の社会史	(前) 文学 (後) 哲学 (後) 情報リテラシー II (後) 生命倫理	(前) コミュニケーション論	
	(16単位以上) 必修選択	(前) 法学(日本国憲法)				
卒業所要単位数 (124単位)	専門基礎科目 (30単位)	講義科目 コース共通 必修 (24単位)	(前) 生理学A ■※ (前) 機能解剖学 (前) 衛生学 ■※ (前) スポーツ哲学 ■※ (後) スポーツ運動学 I ■※ (後) 健康教育論 (後) スポーツ心理学A ■※	(前) 運動生理学概論 ■※ (前) スポーツ医学概論 (前) スポーツ栄養学 (後) スポーツバイオメカニクス (後) スポーツマネジメント論 ■※		
		実技科目 コース共通 必修 (6単位)	(通) スポーツ総合 *□	(前) 陸上競技実習 (後) 総合スポーツ実習A	(前) スイミング実習 (後) 総合スポーツ実習B	
	専門基礎幹科目 (14単位以上)	コース共通 必修選択 (14単位以上)	(前) スポーツコーチング論 I (前) スポーツトレーニング論 I (前) スポーツ社会学 ■※ (後) スポーツ文化論 ■ (後) 生理学B ■※	(前) スポーツ心理学B ■ (前) 公衆衛生学 ■※ (後) スポーツリスクマネジメント (後) 学校保健 ■※		
専門教育科目 (90単位以上)	「専門科目」・「専門演習」の合計	必修選択 (選択した コースから 20単位 以上選択)	ヘルスデザインコース			
			スポーツビジネスコース			
			スポーツコーチングコース			
			(前) トップアスリート論 (後) スポーツトレーニング論 II	(前) スポーツ運動学 II ■ (前) スポーツコーチング論 II (後) 舞踊論 ■※		
専門演習	選択		(通) 専門演習 I *	(通) 専門演習 II *	(通) 専門演習 III *	
		自由科目	教職入門 教育原理 教育の制度・経営 教育心理学	教育相談 保健体育科教育法 I 保健体育科教育法 II 道德教育の研究 特別活動論	生徒・進路指導論 教育課程論 教育方法論 保健体育科教育法 III 保健体育科教育法 IV 教職総合演習 教育実習事前指導	教育実習 教育実習事後指導

□=教職(66条の6の科目)
■=教職(教科に関する科目)
■※=教職(教科に関する必修科目)
*=通年科目

■=必修科目
■=必修選択科目
□=コース別必修選択科目
□=選択科目

平成24年度
スポーツ健康学部 時間割案

	月曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	総合英語 I	1通	301G	→	→	→
	総合英語 I	1通	301H	→	→	→
	総合英語 I	1通	301I	→	→	→
	総合英語 I	1通	301J	→	→	→
	総合英語 I	1通	303A	→	→	→
	総合英語 I	1通	303B	→	→	→
	公衆衛生学	2前	214			
	公衆衛生学	2前	218			
	運動処方・負荷テスト	3・4前	215	健康科学文献レビュー	3・4後	215
2 限 11:10～ 12:40	総合英語Ⅲ	2通	301G	→	→	→
	総合英語Ⅲ	2通	301H	→	→	→
	総合英語Ⅲ	2通	301I	→	→	→
	総合英語Ⅲ	2通	301J	→	→	→
	総合英語Ⅲ	2通	303A	→	→	→
	総合英語Ⅲ	2通	303B	→	→	→
	生理学A	1前	118	生理学B	1後	118
	スポーツジャーナリズム論 (新聞)	3・4前	214	スポーツジャーナリズム論 (放送)	3・4後	214
	生活習慣病と身体活動	3・4前	215	運動器疾患と身体活動	3・4後	215
3 限 13:30～ 15:00	スポーツ哲学	1前	118	健康教育論	1後	214
	運動生理学概論	2前	214	健康教育論	1後	218
	スポーツ戦略・戦術論	2前	215	運動生理学実習	3・4後	208
	コミュニケーション論	1・2・3・4前	214	メンタルフィットネス論	2後	215
				スポーツメディア論	2後	216
4 限 15:10～ 16:40	体力測定・評価	2前	214	学校保健	2後	214
				学校保健	2後	218
	スポーツ医学	3・4前	215	スポーツ医学実習	3・4後	208
	英語コミュニケーション I	1・2・3・4通	303A	→	→	→
5 限 16:50～ 18:20	スポーツコンディショニング論 I	2前	214	スポーツコンディショニング論 II	2後	214
	英語演習 I	2・3・4通	216	→	→	→
	運動生理学	3・4前		比較スケート論 (フィギュア・スケート)	2後	215
				エアロビック運動実習	3・4後	127

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

	火曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	ラグビー指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	総合格闘技指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	バレーボール指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	スポーツトレーニング論Ⅰ	1前	214	スポーツトレーニング論Ⅱ	1後	214
	人間とスポーツ	1・2・3・4前	218	病の社会史	1・2・3・4後	218
				青少年スポーツ実習（陸上）	3・4後	体育
2 限 11:10～ 12:40	陸上競技実習	2前	体育	総合スポーツ実習A	2後	体育
	スイミング実習	3前	体育	総合スポーツ実習B	3後	体育
	死生学	1・2・3・4前	214	生命倫理	1・2・3・4後	214
3 限 13:30～ 15:00	陸上競技実習	2前	体育	総合スポーツ実習A	2後	体育
	スイミング実習	3前	体育	総合スポーツ実習B	3後	体育
	文学	1・2・3・4前	214	哲学	1・2・3・4後	214
4 限 15:10～ 16:40	基礎演習	1通	301G	→	→	→
	基礎演習	1通	301H	→	→	→
	基礎演習	1通	301I	→	→	→
	基礎演習	1通	301J	→	→	→
	テーピング指導論	2・3・4通	127	→	→	→
	英語コミュニケーションⅡ	2・3・4通	303A	→	→	→
5 限 16:50～ 18:20	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	301G	→	→	→
	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	301H	→	→	→
	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	301I	→	→	→
	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	301J	→	→	→
	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	303A	→	→	→
	専門演習Ⅰ・Ⅱ	2・3通	303B	→	→	→

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

	水曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	ベースボール指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	サッカー指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	ウィンタースポーツ指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	機能解剖学	1前	118	スポーツ運動学 I	1後	118
	スポーツ運動学 II	2前	214			
	経営学	1・2・3・4前	215			
2 限 11:10～ 12:40	バスケットボール指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	テニス指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	駅伝・ロードレース指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	スポーツコーチング論 I	1前	214	スポーツリスクマネジメント	2後	214
	スポーツと政治	2前	215	スポーツとキャリア形成	1後	118
3 限 13:30～ 15:00	基礎演習	1通	301G	→	→	→
	基礎演習	1通	301H	→	→	→
	基礎演習	1通	301I	→	→	→
	スポーツ医学概論	2前	118	スポーツバイオメカニクス	2後	118
	女性とスポーツ	1・2・3・4前	214	スポーツとまちづくり	1・2・3・4後	214
	ジョギング・ウォーキング実習	2・3・4前	体育	キッズスポーツ実習	3・4後	127
4 限 15:10～ 16:40	スポーツ社会学	1前	214	スポーツ文化論	1後	214
	情報リテラシー I	1・2・3・4前	501B	情報リテラシー II	1・2・3・4後	501B
	スポーツイベント論	3・4前	215	スポーツ政策論	3・4後	215
	スポーツコーチング論 II	2前	214			
5 限 16:50～ 18:20	専門演習 I・II	2・3通	301G	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301H	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301I	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301J	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	303A	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	303B	→	→	→

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

	木曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	スポーツ総合	1通	体育	→	→	→
	陸上競技指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	スイミング指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
	バドミントン指導論（実習）	2・3・4通	体育	→	→	→
2 限 11:10～ 12:40	陸上競技実習	2前	体育	総合スポーツ実習A	2後	体育
	スイミング実習	3前	体育	総合スポーツ実習B	3後	体育
3 限 13:30～ 15:00	陸上競技実習	2前	体育	総合スポーツ実習A	2後	体育
	スイミング実習	3前	体育	総合スポーツ実習B	3後	体育
	レジャー論	1前	215	スポーツビジネス論	1後	215
	コミュニティスポーツ論	1・2・3・4前	214	スポーツレクリエーション論	1・2・3・4後	214
	トップアスリート論	1前	215	運動療法総論	1後	215
4 限 15:10～ 16:40	リハビリテーション概論	2前	132	アスレティックトレーナー概論	2後	215
	スポーツ経済論	1前	215	スポーツ取材論	1後	215
	スポーツクラブ運営論	3・4前	216	スポーツ産業論	2後	216
5 限 16:50～ 18:20	専門演習 I・II	2・3通	301G	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301H	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301I	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	301J	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	303A	→	→	→
	専門演習 I・II	2・3通	303B	→	→	→

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

	金曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	総合英語Ⅱ	1通	301G	→	→	→
	総合英語Ⅱ	1通	301H	→	→	→
	総合英語Ⅱ	1通	301I	→	→	→
	総合英語Ⅱ	1通	301J	→	→	→
	総合英語Ⅱ	1通	303A	→	→	→
	総合英語Ⅱ	1通	303B	→	→	→
	スポーツ栄養学	2前	118	スポーツマネジメント論	2後	118
	スポーツリハビリテーション実習	3・4前	212B、215	アスレティックリハビリテーション	3・4後	214
2 限 11:10～ 12:40	総合英語Ⅳ	2通	301G	→	→	→
	総合英語Ⅳ	2通	301H	→	→	→
	総合英語Ⅳ	2通	301I	→	→	→
	総合英語Ⅳ	2通	301J	→	→	→
	総合英語Ⅳ	2通	303A	→	→	→
	総合英語Ⅳ	2通	303B	→	→	→
	衛生学	1前	118	スポーツ心理学A	1後	118
	身体機能測定実習	3・4前	208	運動負荷テスト実習	3・4後	208
3 限 13:30～ 15:00	健康科学Ⅱ	2前	214	健康科学Ⅰ	1後	214
	スポーツマーケティング論	2前	215	スポーツ行政論	2後	215
	数学	1・2・3・4前	216	統計学	1・2・3・4後	216
	身体機能測定実習	3・4前	208	フィットネス・トレーニング実習	3・4後	223A、127
				フィットネス・トレーニング実習	3・4後	223A、127
4 限 15:10～ 16:40	スポーツ心理学B	2前	214	運動学ケーススタディ	3・4後	208
	法学（日本国憲法）	1・2・3・4前	215	スポーツ法学	1後	215
	マーケティングリサーチ実習	3・4通	216	→	→	→
5 限 16:50～ 18:20	情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	501B	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後	501B
	生涯スポーツ論	2前	214	舞踊論	2後	215
	英語演習Ⅱ	2・3・4通	124	→	→	→

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

	土曜日					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
1 限 9:30～ 11:00	教育原理	1・2・3・4前	214	教職入門	1・2・3・4後	214
				教育課程論	2・3・4後	218
2 限 11:10～ 12:40				教育の制度・経営	1・2・3・4後	214
	生徒・進路指導論	2・3・4前	218	教職総合演習	3・4後	218
3 限 13:30～ 15:00	教育心理学	1・2・3・4前	214			
	保健体育科教育法Ⅰ	2前	218	保健体育科教育法Ⅱ	2後	218
4 限 15:10～ 16:40	道徳教育の研究	2・3・4前	214	特別活動論	2・3・4後	214
	保健体育科教育法Ⅲ	3前	218	保健体育科教育法Ⅳ	3後	218
5 限 16:50～ 18:20	教育方法論	2・3・4前	214	教育相談	1・2・3・4後	214
				教育実習（事前・事後指導1単位を含む）3単位・5単位	3・4後	218

	その他（集中他）					
	前期			後期		
	科目名	学年	教室	科目名	学年	教室
	青少年スポーツ実習（サッカー）	3・4前				
	国内研修ワークショップ	3・4通		→	→	→
	専門演習Ⅲ	4通	教員研究室	→	→	→

※体育＝グラウンドまたは体育棟教室

※教室名は改修工事設計時の仮称

資料9：資格科目読替一覧表

1) 健康運動実践指導者

a) 資格の内容	認定試験の受験資格を取得することが可能 (養成講習会免除)。 健康運動指導士の称号を得るには、(財)健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格し、健康運動指導士台帳に登録することが必要。
----------	--

b) 事業団体	(財)健康・体力づくり事業財団
---------	-----------------

c) 健康運動実践指導者養成校 認定に必要な科目	本学での読替科目 (予定)
1. 健康管理概論	健康教育論 スポーツ医学概論
2. 運動生理学	運動生理学概論
3. 機能解剖学	機能解剖学
4. 発育・発達と老化	健康教育論
5. 栄養と体重調節	スポーツ栄養学
6. 健康づくりと運動プログラム	運動処方・負荷テスト
7. 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学A
8. 運動障害と予防	スポーツ医学概論
9. エアロビック運動の理論と実際	スイミング指導論 (実習)
10. ストレッチングの理論と実際	スポーツリハビリテーション実習 スポーツトレーニング論I エアロビック運動実習 ジョギング・ウォーキング実習
11. 補強運動の理論と実際	フィットネス・トレーニング実習
12. 体力測定と評価	体力測定・評価
13. 救急処置 (実習3)	スポーツリスクマネジメント
計 33 単位 (講義 17 実習 16) (1 単位は 90 分)	

2) 健康運動指導士

a) 資格の内容	認定試験の受験資格を取得することが可能 (養成講習会免除)。 健康運動実践指導士の称号を得るには、(財)健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格し、健康運動実践指導者台帳に登録することが必要。
----------	--

b) 事業団体	(財) 健康・体力づくり事業財団
---------	------------------

c) 健康運動指導士養成校認定に必要な科目	本学での読替科目 (予定)
1. 健康づくり施策概論	健康教育論
2. 健康管理概論	スポーツ医学概論
3. 生活習慣病 (成人病)	生活習慣病と身体活動
4. 運動生理学	運動生理学
5. 機能解剖とバイオメカニクス	機能解剖学
6. 健康づくりの運動の理論	身体トレーニング論
7. 運動障害と予防	スポーツ医学概論
8. 体力測定と評価	体力測定・評価 身体機能測定実習
9. 健康づくり運動の実際	スイミング指導論 (実習) フィットネス・トレーニング実習 スポーツリハビリテーション実習 エアロビック運動実習 ジョギング・ウォーキング実習
10. 救急処置	スポーツリスクマネジメント
11. 運動プログラムの管理	運動処方・負荷テスト 運動負荷テスト実習
12. 運動負荷試験	運動処方・負荷テスト 運動負荷テスト実習
13. 運動行動変容の理論と実際	健康科学文献レビュー 運動学ケーススタディ
14. 運動と心の健康増進	メンタルフィットネス論
15. 栄養摂取と運動	スポーツ栄養学
健康産業施設等現場実習	国内研修ワークショップ
計 120 単位 (講義 78 実習 42) (1 単位は 90 分)	

3) アスレティックトレーナー

a) 資格の内容	理論試験、総合実技試験の受験資格を取得することが可能 (養成講習会免除)。 アスレティックトレーナーの認定を受けるためには、(財) 日本体育協会が行う、特別講習を修了し、理論試験、総合実技試験に合格した上で、登録手続きを行うことが必要。
----------	---

b) 事業団体	(財) 日本体育協会
---------	------------

c) アスレティックトレーナー講習・試験免除適応コース認定に必要な科目	本学での読替科目 (予定)
■専門科目	
1. アスレティックトレーナーの役割(30)	アスレティックトレーナー概論
2. スポーツ科学 (120)	スポーツバイオメカニクス 運動生理学 運動生理学実習 メンタルフィットネス論 スポーツ心理学B
3. 運動器の解剖と機能(60)	機能解剖学 スポーツ運動学 I
4. スポーツ外傷・障害の基礎知識(60)	健康科学 I 運動器疾患と身体活動
5. 健康管理とスポーツ医学 (30)	生活習慣病と身体活動 健康科学 II
6. 検査・測定と評価 (60)	体力測定・評価 運動負荷テスト実習 身体機能測定実習
7. 予防とコンディショニング(90)	スポーツコンディショニング論 II フィットネス・トレーニング実習 運動学ケーススタディ
8. アスレティックリハビリテーション(90)	リハビリテーション概論 アスレティックリハビリテーション スポーツリハビリテーション実習
9. 救急処置(30)	スポーツリスクマネジメント
10. スポーツと食事(30)	スポーツ栄養学
現場実習(180)	国内研修ワークショップ

■共通科目 I + II + III	本学での読替科目 (予定)
共通科目 I 文化としてのスポーツ 指導者の役割 I トレーニング論 I スポーツ指導者に必要な医学的知識 I スポーツと栄養 指導計画と安全管理 ジュニア期のスポーツ 地域におけるスポーツ振興 共通科目 II 社会の中のスポーツ スポーツと法 スポーツの心理 I スポーツ組織の運営と事業 対象に合わせたスポーツ指導 共通科目 III 指導者の役割 II アスリートの栄養・食事 スポーツの心理 II 身体のしくみと働き 競技者育成のための指導法 スポーツ指導者に必要な医学的知識 II	スポーツコーチング論 I 人間とスポーツ スポーツ医学概論 スポーツコンディショニング論 I スポーツ心理学A 身体トレーニング論 スポーツマネジメント論

(4) 教職課程に関する科目

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織 (中高・教科に関する科目)									
認定を受けようとする学部・学科等	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	入学定員 150	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科に関する科目 20単位			2. 学 位 学士 (スポーツ健康学)		
認定を受けようとする免許状の種類 (免許教科)	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考	
		授業科目	単位数		教授	准教授	講師		助教
			必修	選択					
中一種免 (保健体育) 高一種免 (保健体育)	体育実技	○陸上競技指導論 (実習)	3			★		1科目以上選択	
		○スイミング指導論 (実習)	3						
		テーピング指導論 (実習)		3					
		ベースボール指導論 (実習)		3	★				
		サッカー指導論 (実習)		3	★				
		ラグビー指導論 (実習)		3					
		バレーボール指導論 (実習)		3					
		バスケットボール指導論 (実習)		3					
		テニス指導論 (実習)		3	★				
		バドミントン指導論 (実習)		3					
		駅伝・ロードレース指導論 (実習)		3			★		
		○総合格闘技指導論 (実習)	3						
		ウィンタースポーツ指導論 (実習)		3	★				
		○舞踊論	2						
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学」及び運動学 (運動方法学を含む。)	○スポーツ哲学	2							
	○スポーツ心理学A	2							
	○スポーツマネジメント論	2							
	○スポーツ社会学	2							
	○スポーツ運動学I	2							
	スポーツ心理学B		2						
	スポーツ文化論		2	★					
	スポーツ運動学II		2						
	生理学 (運動生理学を含む。)	○生理学A	2						
		○生理学B	2						
○運動生理学概論		2				★			
運動生理学			2	★					
衛生学及び公衆衛生学	○衛生学	2							
	○公衆衛生学	2							
学校保健 (小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	○学校保健	2							
●単位数	・教員の免許状取得のための必修科目 (選択必修科目の単位数を含む)			36単位		●専任教員数 (合計)	8人		
	・教員の免許状取得のための選択科目			35単位		●必要専任教員数	3人		

「国内研修ワークショップ」実施計画書（案）

1. 概要

本学部の教育プログラムに関連している施設（健康増進施設・医療機関など）で研修を行い、健康増進を目的とした運動指導や健康管理等の業務内容を体験する。実際の業務現場を体験することによって、健康に関する社会的ニーズを理解し、修得した知識の活用方法について考える機会が得られる。地方自治体が主催する健康増進センターや総合リハビリテーションセンターを研修先とする。「国内研修ワークショップ」を通じて取得した単位は専門科目（実習科目）として卒業所要単位に含むことができる。

2. 目的

学部教育で学んだ理論的な知識を集大成したうえで、実際の社会現場において必要な課題解決能力を身につけることを目的とする。研修を通じて理論と実践のギャップを肌で感じ、課題解決のために必要な実践力を構築することが求められる。具体的には、健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導を通じて、実務を体験することを目的とする。接遇実習、施設管理業務に関わる実習や、健康状態の把握、体力測定、運動プログラムの作成・提供、運動の記録・情報の保管、生活指導などを含む健康運動実習を行う。実習に先立ち、事前学習及び計画立案を実施し、実習後には報告会を行う。

3. プログラム内容（一例）

国内の研修期間において行う各研修先と研修内容については以下の通りである。

研修先	研修期間	派遣人数	研修内容
伊奈総合病院	夏季休暇中 (5日間 30時間)	5名	(1) 接遇実習 (2) 施設管理業務 (3) 健康状態の把握 (4) 体力測定 (5) 運動プログラムの作成 (6) 運動の記録 (7) 情報の管理 (8) 生活指導

4. 研修生の決定

参加希望者は2年次後期に希望する研修先を明記した「国内研修ワークショップ」参加希望票を提出する。希望者が定員を上回った場合は、履修登録前にレポートと面接を課し、教授会において選考を行う。研修生の選考にあたっては、理論的な知識はもちろんだが、

実社会での体験学習を行うにあたっての生活上のマナーを心得ている者を優先させる。各研修への参加人数は、教育効果を保障するため、20名を上限として履修を認める。

5. 事前指導、事後指導

「国内研修ワークショップ」の授業の一環として、実地研修の前後に事前指導、事後指導を行う。事前指導では主に実習先でのトラブルに対処する方法や臨床時の注意事項などについて学習計画を立案していく中で徹底する。また、事後指導においては研修先での経験を今後どのように活かしていくかについて、受講者同士、ならびに担当教員との報告会における議論を通じて模索することとする。

6. プログラムの実施体制、単位認定

実施にあたっては、担当教員と受け入れ先の担当者による連絡会議を設け、当該年度の派遣課題、学生と受け入れ先の希望の調整と人数を確定する。成績の評価は、研修時に受け入れ先へ成績基準情報（出席状況、勤務態度、習得課題の達成状況）を依頼し、その情報と学生からのレポートによって、専任教員から構成される判定会議で単位認定を行う。これらの実習は、夏季休暇期間、週末など利用し、計5日間以上、延べ事前事後指導を含めて40時間以上の内容を有するものとする。

7. 緊急時の対応、学部内責任体制

（1）法政大学における対応

事件、事故の発生時には「学務部危機管理マニュアル」に従い、速やかに対応を行う。専任教員が研修期間中に訪問指導を行い問題点の早期発見に努める。研修期間中は、引率教員と学部責任者は常に連絡がとれる状態を確保しておく。また、学部内に「実習委員会」を設け、実習委員長を含む学部教授会執行部が本プログラムにおける責任体制を確立する。

（2）派遣先における対応

本プログラムの実施に際して、受け入れ担当部署と責任者を明確に定める。受け入れ先においては、日常のカウンセリング体制を確立させることはもちろん、事件、事故発生時の即座の対応が可能となるようなマニュアルの作成を依頼する。なお、各派遣先においては、施設が提携している医療施設の利用が可能であり、参加学生の安全を第一にプログラムの実施を行う。

以上

課外研修実施計画書案

1. 概要

スポーツ健康学部の教育課程を基礎として、国際的な視野を身につけるために、海外の大学において約 3 週間の研修を実施する。研修は正課課程には含まれないが、最新の健康科学とスポーツ科学に触れる機会として重要な位置付けをもつ。

2. 目的

海外の先進的な学習・研究環境に接することにより、ウェルビーイングの増進のために必要な学際的な学問体系を理解することが主目的となる。本学部の教育課程において得た知識や技術を実際に世界レベルの場において研修し、不足している知識やギャップを肌で感じるにより、自らの知識をさらに磨くことができる。

3. プログラム内容

研修は、法政大学と一般協定を締結しているアメリカ合衆国アイダホ州立ボイジー大学で行う。相手先大学が持つ特徴を活かしたプログラム構成となっており、本学部の専門教育を受けている学生が受講することにより、相乗的な効果を得ることが期待できる。具体的なプログラム内容は以下の通りである。

ボイジー大学は大学スポーツが盛んな米国の中でも、特にスポーツ活動が盛んな州立大学であり、スポーツ健康学を支えるアスレティックトレーナーに関する学習を中心に研修を実施する。学生は学習に必要な語学研修を行うと同時に運動科学部 (Department of Kinesiology) におけるトレーナー実習を行う。研修においては学部学生対象の **Taping & Wrapping Techniques** (テーピングの技術)、**Training Room Procedures** (トレーニングルームの活用) の授業内容を受講するとともに、ボイジー大学の体育施設において、スポーツビジネスのマネジメント方法に関する研修を行う。

授業時間割 (案)

	(月曜日)	(火曜日)	(水曜日)	(木曜日)	(金曜日)
9:00~10:30	語学学習 (能力別)	語学学習 (能力別)	語学学習 (能力別)	語学学習 (能力別)	語学学習 (能力別)
13:30~15:00	テーピングの 技術	トレーニング ルームの活用	テーピングの 技術	トレーニング ルームの活用	テーピングの 技術
15:30~17:00	(現場実習) マネジメント 研修	(現場実習) マネジメント 研修	(現場実習) マネジメント 研修	(現場実習) マネジメント 研修	(現場実習) マネジメント 研修

講義の概要

科目名	講義等の概要（目的と内容）
語学学習	listening , speaking , reading , writing の四つの技能をバランスよく習得し、スポーツを支える人材に必要となる <u>実践的な英語力を定着させる。</u>
テーピングの技術	スポーツ活動における障害や傷害，またその予防にテーピングは欠かせないものとなっている意味を研修する。
トレーニングルームの活用	アスレティックトレーナーとは何かを考え，トレーニングルームの現場を実地体験する。
(現場実習) マネジメント研修	スポーツの実技指導を受講し、スポーツビジネスの現状を調査・研究する。

(実習イメージ)



Taping & Wrapping Techniques



Training Room Procedures

4. 研修生の決定

各大学の海外研修ワークショップの定員と学生選抜の方法は以下の通りである。

(1) 参加学生定員

各研修ともに安全な運営のために上限数を設ける。

(2) 学生選抜の方法

ボイジー州立大学での研修に参加するためには、2年次修了時点までに「スポーツビジネス論」「テーピング指導論（実習）」を修得しており、各科目の評価がGPA換算において共に4.0であること。また、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を修得しているか、TOEIC 500以上、英語検定準2級以上を取得していること。以上の条件を満たした上で希望者が定員を上回った場合は、履修登録前にレポートを課し、教授会において選考を行う。

5. 事前指導、事後指導

研修は夏期休暇を利用して実施されるが、事前指導として研修前に事前指導を行う。

事前指導においては、生活安全上の注意、必要な語学力、研修内容についての確認を行い、慣れない環境の中でも円滑な研修が行えるよう配慮する。事前指導の主な内容は以下のとおりである。

回数	時期	研修タイプ	研修内容
第1回	4月	手続き等の説明	必要な手続きと必要な語学能力の確認。研修場の注意事項を説明
第2回	5月	研修内容の説明①	研修先のカリキュラム
第3回	6月	研修内容の説明②	研修先のカリキュラム
第4回	8月	生活上の注意	研修先の施設、周辺の状況 危機管理上の注意点

研修後、派遣先での研修内容を踏まえた事後指導の機会として「研修報告会」を設ける。「研修報告会」では、教授会に対して研修成果を発表するとともに、翌年度以降、研修に参加を希望している在学生に対して、現地の様子を分かりやすく説明する機会とする。

6. 緊急時の対応、学部内責任体制

(1) 法政大学における対応

事件、事故の発生時には「学務部危機管理マニュアル」に従い、速やかに対応を行う。本プログラムには専任教員が同行（引率）し、問題点の早期発見に努める。研修期間中は、引率教員と学部責任者は常に連絡がとれる状態を確保しておく。また、学部内に「実習委員会」を設け、実習委員長を含む学部教授会執行部が本プログラムにおける責任体制を確立する。

(2) 派遣先大学における対応

本プログラムの実施に際して、受け入れ担当部署と責任者を明確に定める。受け入れ先においては、日常のカウンセリング体制の確立と、事件、事故発生時の即座の対応が可能となるようなマニュアルの作成を依頼する。なお、各派遣先においては学内における医療施設の利用が可能であり、参加学生の安全を第一にプログラムの実施を行う。

以上

文部科学省 平成16年度採択

現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP)



新しい国際遠隔教育の構築に向けて
ーコンテンツ開発とオンデマンド教育ー
取組成果報告書

2007年3月

HOSEI 法政大学
情報技術 (IT) 研究センター